

2009年度(2010年3月期)

# 第2四半期 決算説明会



**BA**

ビルディングオートメーション



**AA**

アドバンスオートメーション



**LA**

ライフオートメーション

2009年10月30日

株式会社 山武

## 第2四半期決算の特徴

- 一部市場で回復の兆候があるものの、全般として、昨秋来の景気低迷、設備投資の凍結・抑制傾向は継続しており、売上高は935億円(前年同期比16.2%の減少)となる。
- アドバンスオートメーション(AA)事業は国内外設備投資減少の影響を受け前年同期比で大幅な減収・減益となったが、市場環境が異なるビルディングオートメーション(BA)事業、ライフオートメーション(LA)事業の業績は、景気悪化の影響はあるものの、底堅く推移。
- 体質強化と徹底した経費削減に取り組んだものの、減収の影響は大きく、営業利益は15億円(前年同期比77.6%の減少)となる。

## 連結業績予想について

- 下期はほぼ期初計画通りの業績を見込み、通期売上高2,120億円(期初計画比2.5%の減少)、営業利益106億円(期初計画比7.8%の減少)を計画。

## 目次

# 2009年度(2010年3月期) 第2四半期決算説明会

<b>1</b>	<b>2009年度 第2四半期決算報告</b>	<b>P. 4</b>
<b>2</b>	<b>2009年度 通期業績計画</b>	<b>P.17</b>
<b>3</b>	<b>株主への利益還元</b>	<b>P.21</b>
<b>4</b>	<b>その他</b>	<b>P.23</b>

本資料に記載されている当社の現在の計画、目標等過去の事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報を基とする合理的な判断に基づくもので、将来の業績を保証するものではありません。

実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果になることがあります。

\* 数値は表示単位未満四捨五入しております

# 1 2009年度 第2四半期決算報告

《前年同期・期初計画比》

- 昨秋来の厳しい事業環境のなか、売上高は935億円(前年同期比16.2%の減少)となる。
- 徹底した経費削減、収益基盤強化のための変革活動を実施したものの、減収の影響により営業利益は15億円(同77.6%の減益)となる。

単位：億円

	2008年度 (2009年3月期)		2009年度 (2010年3月期)					《参考》 2Q累計 業績予想修正 (2009.10.1)
	2Q累計 実績 (A) (2008.11.7)	2Q累計 実績 (B) (2009.10.30)	前年同期比増減		2Q累計 期初計画 (C) (2009.5.8)	期初計画比増減		
			(B) - (A)	%		(B) - (C)	%	
受注	1,387	1,180	△ 207	△14.9%	-	-	-	-
売上高	1,115	935	△ 180	△16.2%	985	△ 50	△5.1%	935
営業利益	67	15	△ 52	△77.6%	25	△ 10	△40.5%	17
営業利益率	6.0%	1.6%	△ 4.4		2.5%	△ 0.9		1.8%
経常利益	66	14	△ 52	△78.6%	24	△ 10	△40.9%	18
当期利益	33	△ 2	△ 35	-	5	△ 7	-	△ 2

《前年同期比》

- 投資有価証券の評価損等を含み、特別損失7億円を計上した。

単位：億円

	2008年度 (2009年3月期)	2009年度 (2010年3月期)		
	2Q累計 実績 (A) (2008.11.7)	2Q累計 実績 (B) (2009.10.30)	前年同期比増減	
			(B) - (A)	%
営業利益	67	15	△ 52	△77.6%
<i>営業外収益</i>	6	5	△ 0	△1.4%
<i>営業外費用</i>	6	6	0	5.5%
経常利益	66	14	△ 52	△78.6%
<i>特別利益</i>	0	0	△ 0	△82.9%
<i>特別損失</i>	3	7	3	103.3%
<i>法人税等</i>	30	9	△ 20	△68.3%
当期利益	33	△ 2	△ 35	-
※ <u>税引前利益</u>	<u>63</u>	<u>7</u>	<u>△ 56</u>	<u>△88.3%</u>

## 《前年同期・期初計画比》

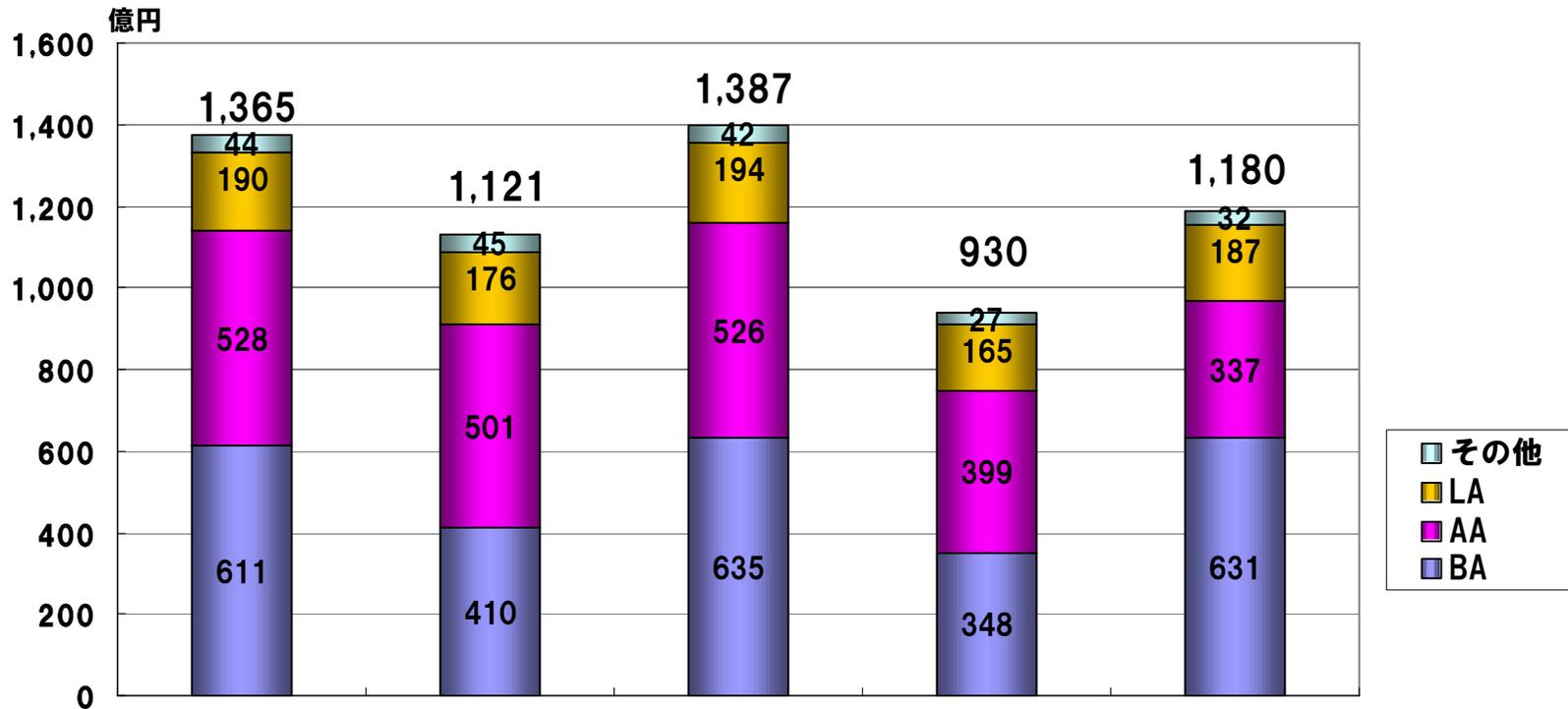
- BA事業は、新規・既設建物市場が景気悪化の影響を受け、売上高は400億円(前年同期比4.6%の減少)、営業利益は20億円(同39.6%の減少)となる。
- AA事業は、設備投資の凍結・抑制傾向継続の影響を受け、売上高は343億円(同27.5%の減少)、営業損失は7億円となる。
- LA事業は、売上高は178億円(同4.8%の減少)となったが、営業利益は、金門製作所およびライフアシスト分野の利益改善により3億円(前年同期は1億円の営業損失)となる。

単位：億円

	2008年度 (2009年3月期)	2009年度 (2010年3月期)					
	2Q累計 実績 (A) (2008.11.7)	2Q累計 実績 (B) (2009.10.30)	前年同期比増減		2Q累計 期初計画 (C) (2009.5.8)	期初計画比増減	
			(B) - (A)	%		(B) - (C)	%
BA 受注	635	631	△ 4	△0.6%	—	—	—
売上高	419	400	△ 19	△4.6%	410	△ 10	△2.5%
営業利益	33	20	△ 13	△39.6%	28	△ 8	△28.2%
営業利益率	7.9%	5.0%	△ 2.9		6.8%	△ 1.8	
AA 受注	526	337	△ 190	△36.0%	—	—	—
売上高	474	343	△ 130	△27.5%	380	△ 37	△9.6%
営業利益	34	△ 7	△ 41	—	△ 5	△ 2	—
営業利益率	7.2%	△2.1%	△ 9.3		△1.3%	△ 0.8	
LA 受注	194	187	△ 7	△3.4%	—	—	—
売上高	187	178	△ 9	△4.8%	185	△ 7	△4.0%
営業利益	△ 1	3	4	—	3	△ 0	△6.2%
営業利益率	△0.5%	1.6%	2.0		1.6%	△ 0.0	
その他 受注	42	32	△ 10	△24.4%	—	—	—
売上高	42	21	△ 20	△49.2%	20	1	5.7%
営業利益	△ 0	△ 1	△ 1	—	0	△ 1	—
営業利益率	△0.0%	△4.2%	△ 4.1		0.0%	△ 4.2	

※ 各セグメントには、セグメント間の内部取引が含まれています。

【参考】2007年度～2009年度  
セグメント別 受注高推移

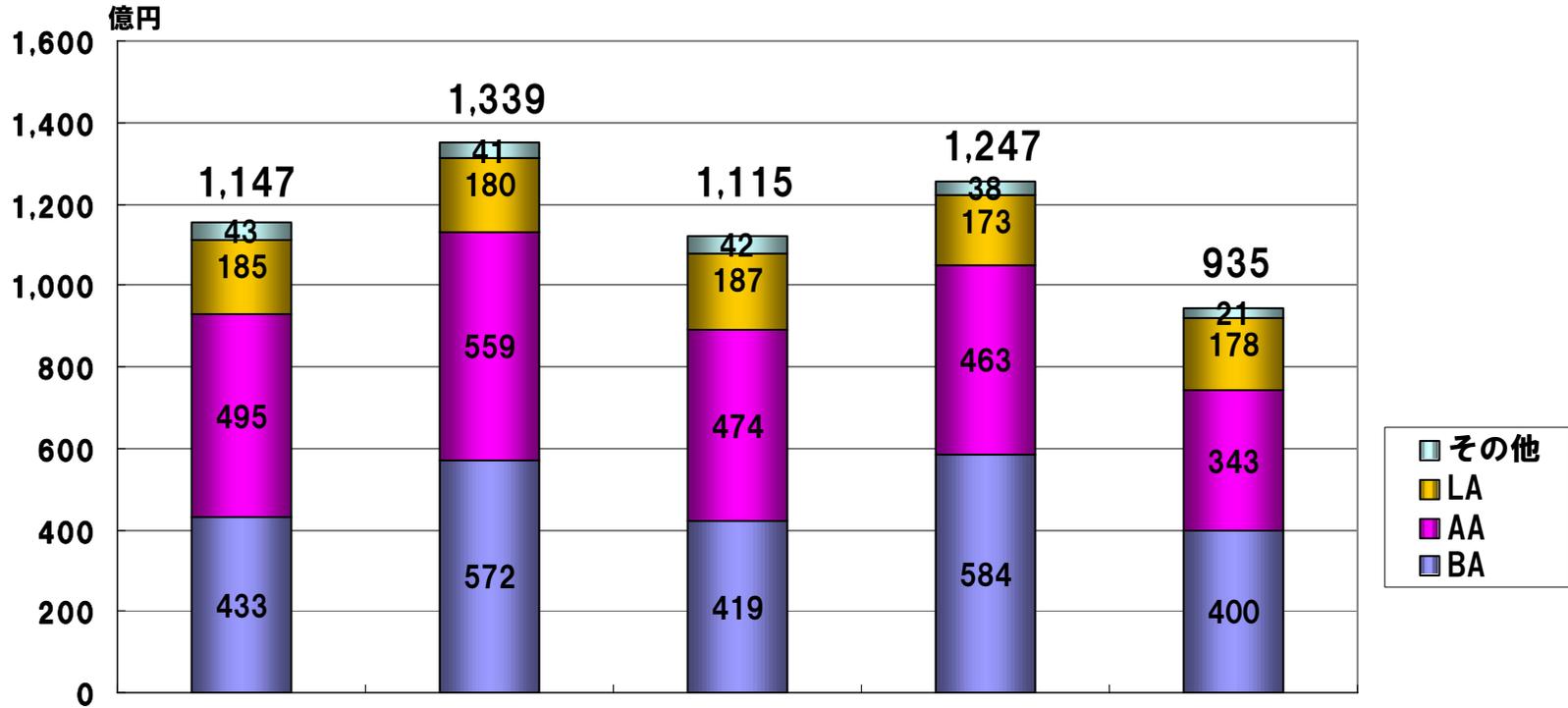


	2007 上期	2007 下期	2008 上期	2008 下期	2009 上期
BA	611	410	635	348	631
AA	528	501	526	399	337
LA	190	176	194	165	187
その他	44	45	42	27	32
合計	1,365	1,121	1,387	930	1,180

(億円)

※各セグメントには、セグメント間の内部取引が含まれています。

【参考】2007年度～2009年度  
セグメント別 売上高推移



	2007 上期	2007 下期	2008 上期	2008 下期	2009 上期
BA	433	572	419	584	400
AA	495	559	474	463	343
LA	185	180	187	173	178
その他	43	41	42	38	21
合計	1,147	1,339	1,115	1,247	935

(億円)

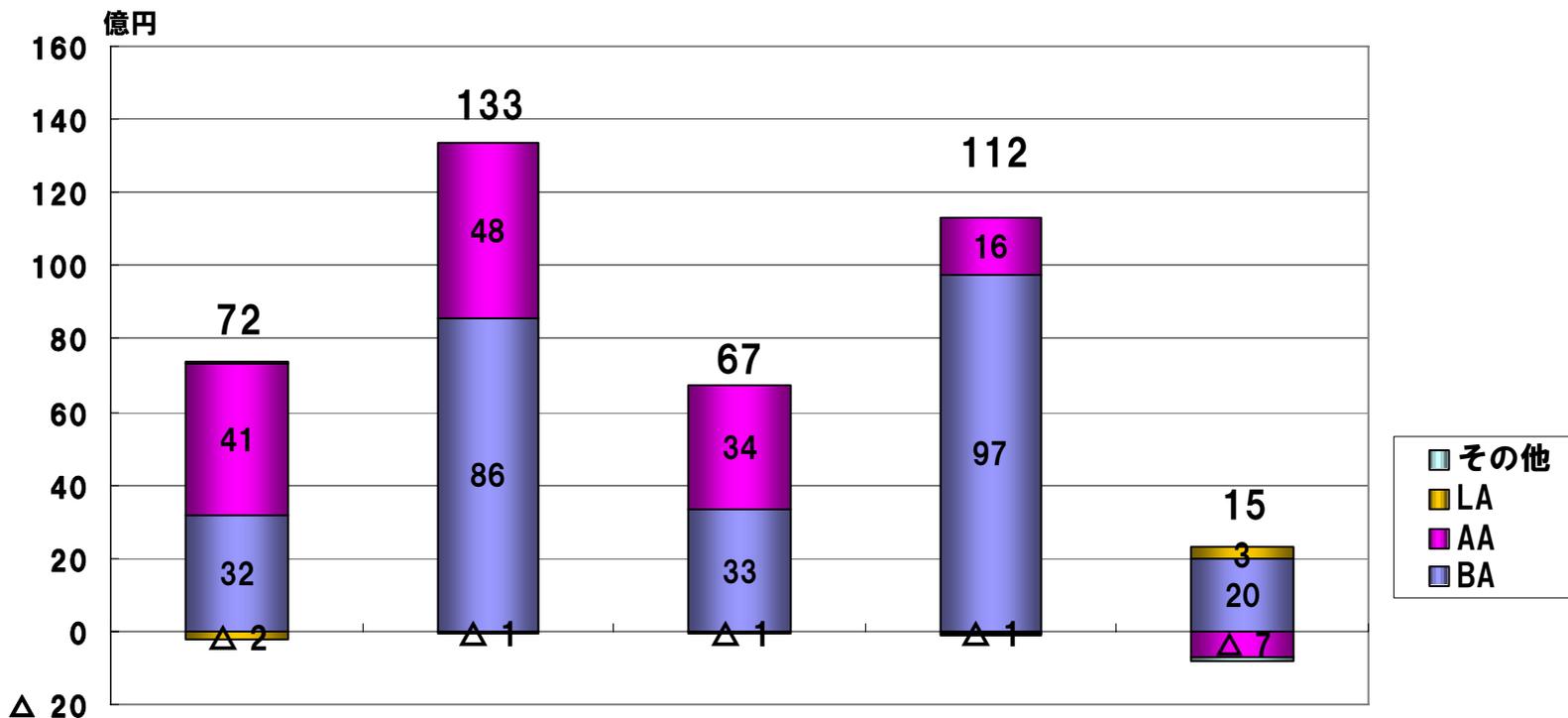
※各セグメントには、セグメント間の内部取引が含まれています。

【参考】2007年度～2009年度

# セグメント別 営業利益推移



創業1906年 山武の進化  
人を中心としたオートメーション



	2007 上期	2007 下期	2008 上期	2008 下期	2009 上期
BA	32	86	33	97	20
AA	41	48	34	16	△ 7
LA	△ 2	△ 1	△ 1	△ 1	3
その他	1	△ 0	△ 0	△ 1	△ 1
合計	72	133	67	112	15

(億円)

※各セグメントには、セグメント間の内部取引が含まれています。

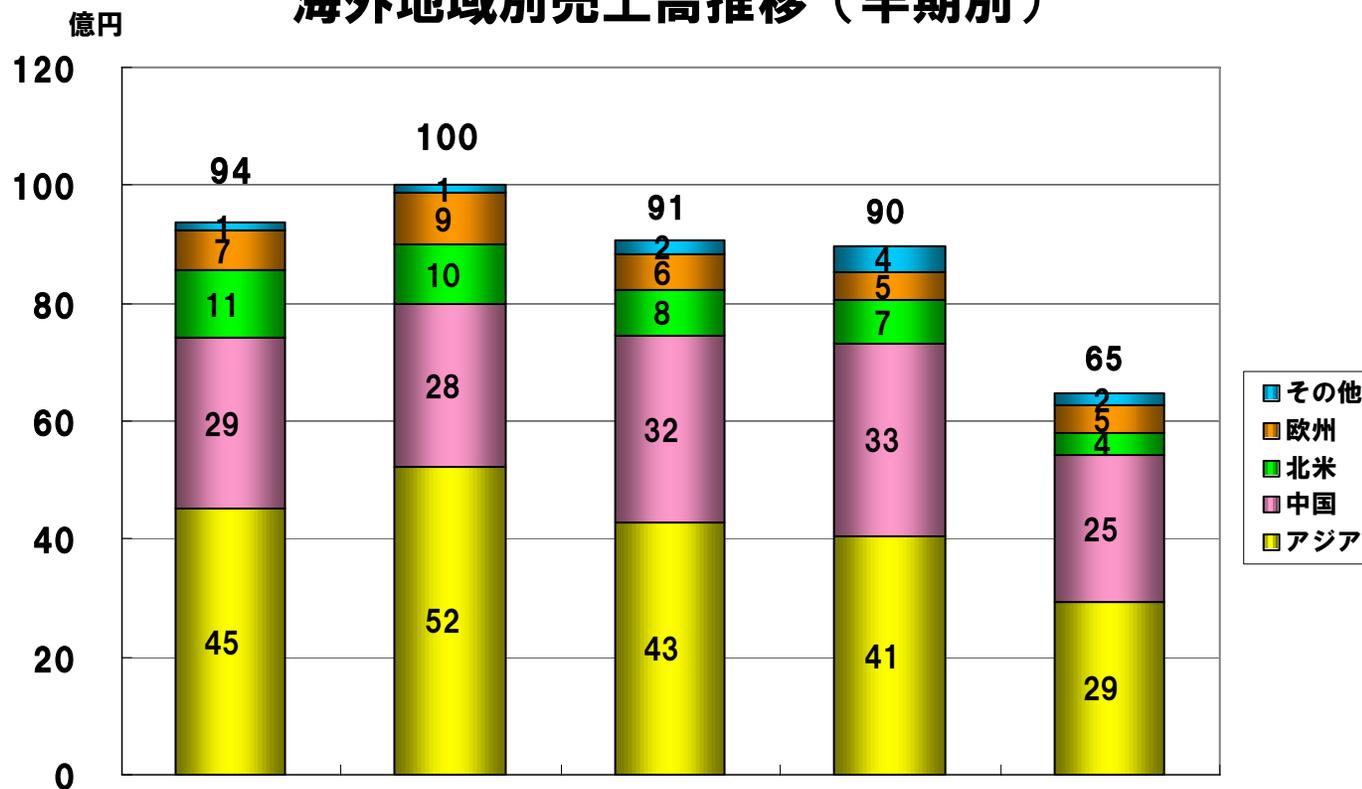
- 世界規模での景気後退および円高の影響を受け、65億円(前年同期比28.5%の減少)となる。

単位：億円

	2008年度 (2009年3月期)	2009年度 (2010年3月期)		
	2Q累計実績 (A) (2008.11.7)	2Q累計実績 (B) (2009.10.30)	前年同期比増減	
			(B) - (A)	%
アジア	43	29	△ 13	△31.1%
中国	32	25	△ 7	△21.7%
北米	8	4	△ 4	△50.9%
欧州	6	5	△ 2	△24.5%
その他	2	2	△ 0	△8.2%
計	91	65	△ 26	△28.5%

※ 海外売上高は、現地法人と直接輸出の売上のみを集計しており、間接輸出は含んでおりません。

### 海外地域別売上高推移（半期別）



参考：期間平均レート

	2007 上期	2007 下期	2008 上期	2008 下期	2009 上期
円/USドル	120.15	※ 117.86	104.90	※ 103.49	95.60
円/ユーロ	159.69	※ 161.31	160.61	※ 152.65	127.44

※ 年間

※ 年間

※ 海外売上高は、現地法人と直接輸出の売上のみを集計しており、間接輸出は含んでおりません。

# 2009年度 第2四半期決算 連結財政状況



創業1906年 山武の進化  
人を中心としたオートメーション

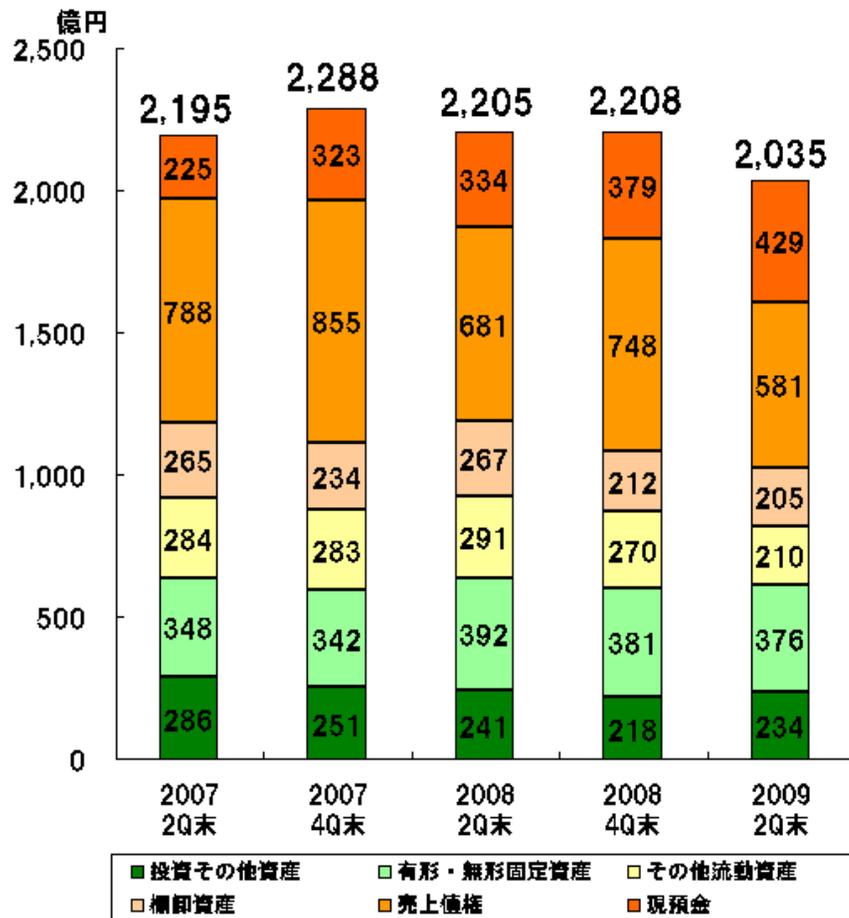
● 総資産は、売上債権の減少を主因に2,035億円(前会計年度末比7.9%の減少)となる。

単位：億円

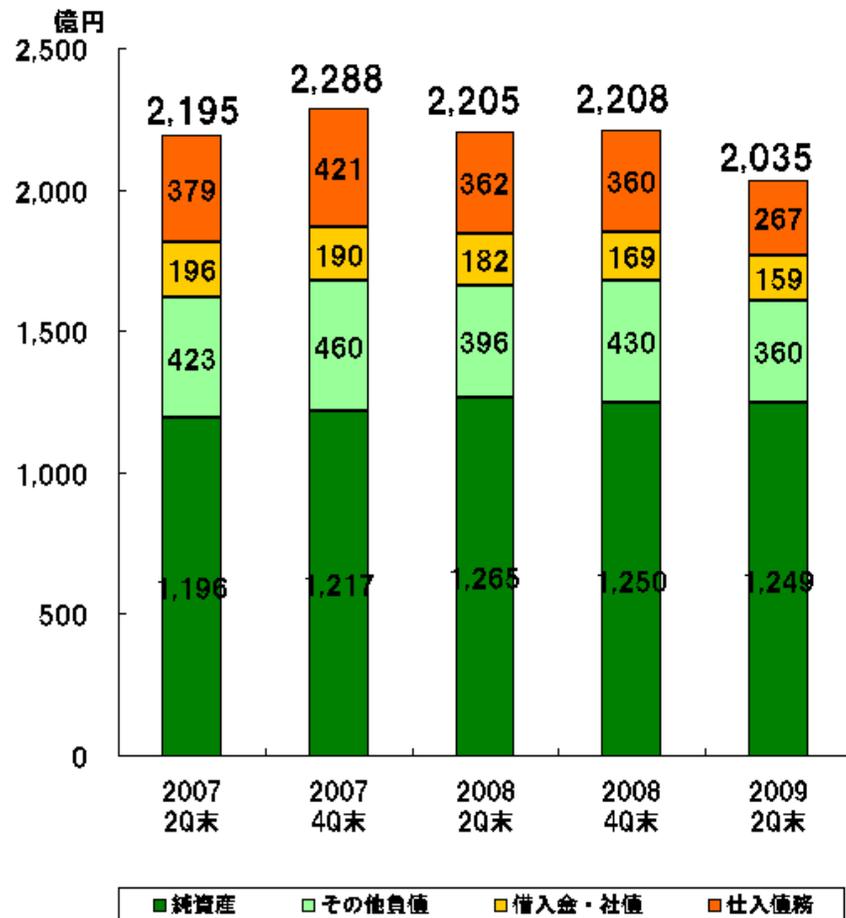
	2008年度		2009年度	増減 (B) - (A)		2008年度		2009年度	増減 (B) - (A)
	2Q末	(A) 4Q末	(B) 2Q末			2Q末	(A) 4Q末	(B) 2Q末	
流動資産	1,573	1,610	1,426	△ 184	負債	940	959	786	△ 173
現金及び預金	334	379	429	51	流動負債	754	787	624	△ 164
受取手形及び売掛金	681	748	581	△ 167	仕入債務	362	360	267	△ 93
棚卸資産	267	212	205	△ 7	短期借入金／社債	147	147	145	△ 2
その他	291	270	210	△ 60	その他	244	281	212	△ 69
固定資産	632	599	609	10	固定負債	186	171	162	△ 9
有形固定資産	303	298	289	△ 9	長期借入金／社債	35	22	14	△ 8
無形固定資産	89	83	86	3	その他	152	149	148	△ 1
投資その他の資産	241	218	234	16					
					純資産	1,265	1,250	1,249	△ 1
					株主資本	1,218	1,238	1,213	△ 25
					資本金	105	105	105	-
					資本剰余金	172	172	172	-
					利益剰余金	948	987	962	△ 25
					自己株式	△ 7	△ 26	△ 26	△ 0
					評価・換算価額等	32	△ 2	21	24
					少数株主持分	14	14	15	1
資産合計	2,205	2,208	2,035	△ 173	負債純資産合計	2,205	2,208	2,035	△ 173

# 【参考】2007年度～2009年度 連結財政状況の推移

### 資産



### 負債・純資産

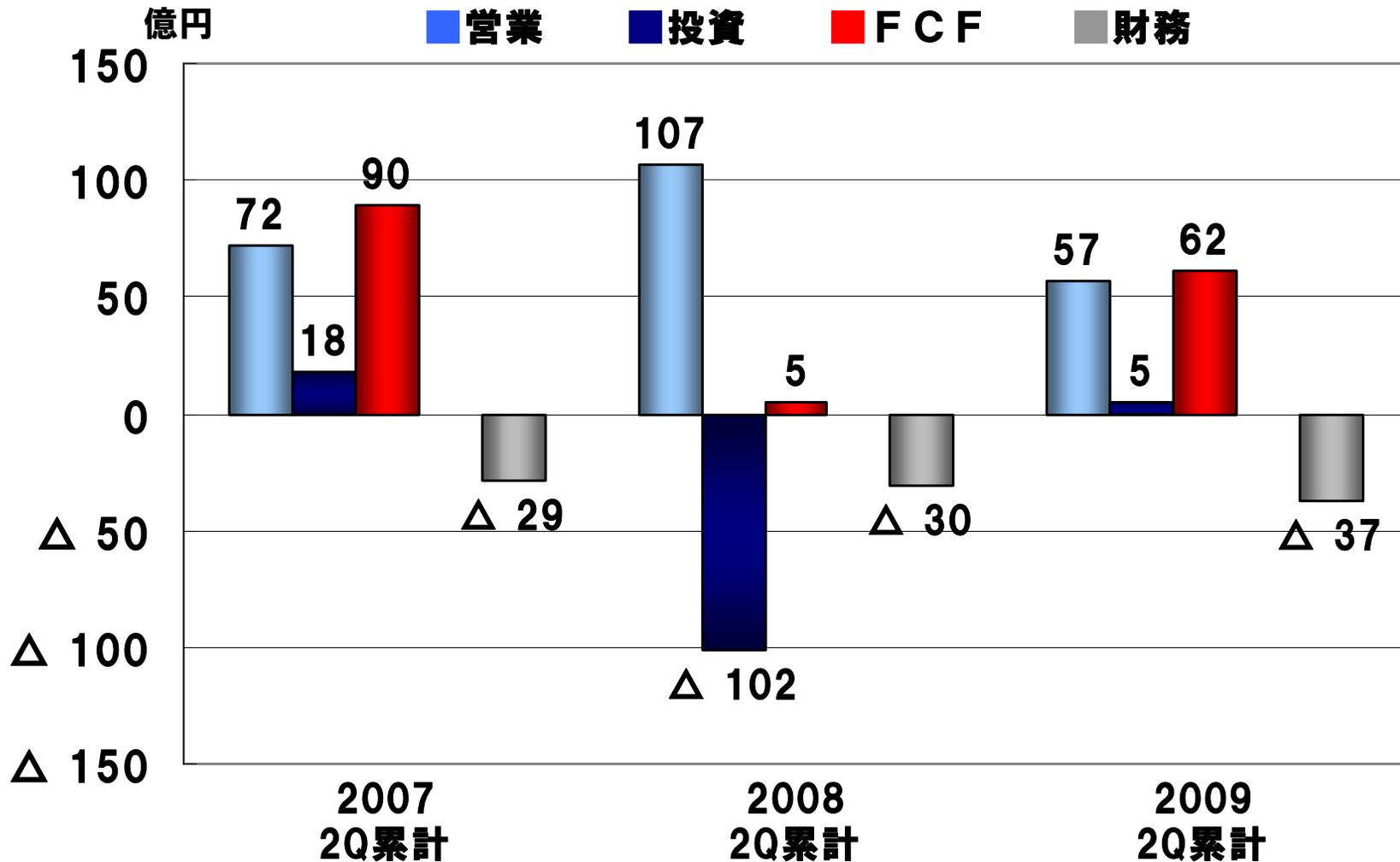


- 営業活動によるキャッシュフローは、税金等調整前四半期純利益の減少を主因に前年同期比マイナス。
- 投資キャッシュフローは短期有価証券の売却による収入の増加および有形固定資産の取得による支出の減少により、前年同期比プラス。
- 現金および現金同等物は、前年同期と同水準。

単位：億円

	2008年度	2009年度		
	2Q累計 実績 (A)	2Q累計 実績 (B)	前年同期比増減	
			(B) - (A)	%
営業活動によるキャッシュ・フロー	107	57	△ 50	△46.8%
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 102	5	107	-
フリー・キャッシュ・フロー	5	62	56	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 30	△ 37	△ 7	-
現金及び現金同等物の増減額	△ 28	27	55	-
現金及び現金同等物の期末残高	465	471	6	1.4%

【参考】2007年度～2009年度  
**連結キャッシュフローの推移**



## 2 2009年度 通期業績計画

# 2009年度 連結業績計画

- 上期の減収・減益の影響はあるものの、下期はほぼ期初計画通りの業績を見込む。
- 引き続き徹底した体質強化に取り組み、計画利益の確保に努めるとともに、中期経営計画を完遂し、「基盤を確たるもの」とする。

単位：億円

	2008年度 (2009年3月期)		2009年度 (2010年3月期)				
	通期 実績 (A) (2009.5.8)	通期 修正計画 (B) (2009.10.30)	前年同期比増減		通期 期初計画 (C) (2009.5.8)	期初計画比増減	
			(B) - (A)	%		(B) - (C)	%
売上高	2,362	2,120	△ 242	△10.2%	2,175	△ 55	△2.5%
営業利益	178	106	△ 72	△40.6%	115	△ 9	△7.8%
営業利益率	7.6%	5.0%	△ 2.6		5.3%	△ 0.3	
経常利益	172	105	△ 67	△38.8%	113	△ 8	△7.1%
当期利益	95	55	△ 40	△42.3%	60	△ 5	△8.3%

# 2009年度 セグメント別業績計画



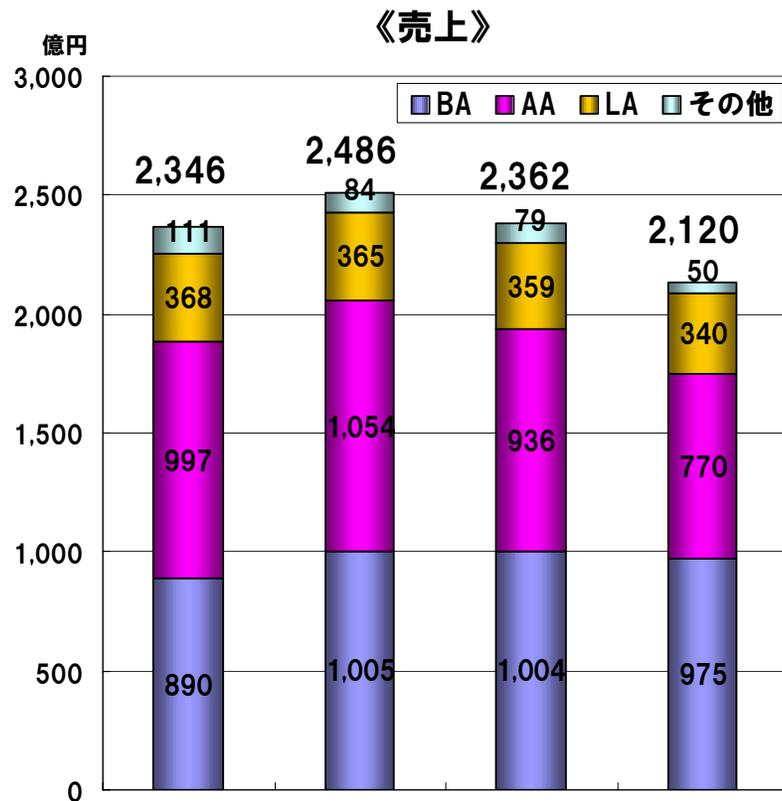
創業1906年 山武の進化  
人を中心としたオートメーション

- BA事業は、大型案件の減少などから前年度比で減収を余儀なくされるものの、サービス事業の増収等を背景に、ほぼ期初計画通りの業績を見込む。
- AA事業は、厳しい事業環境が続くものと見込まれるが、減収の影響を緩和すべく引き続き徹底した事業・業務の体質強化に取り組む。
- LA事業は、景気悪化の影響から減収となるが、利益体質改善の取組みにより、営業利益は期初計画どおり黒字を確保する。

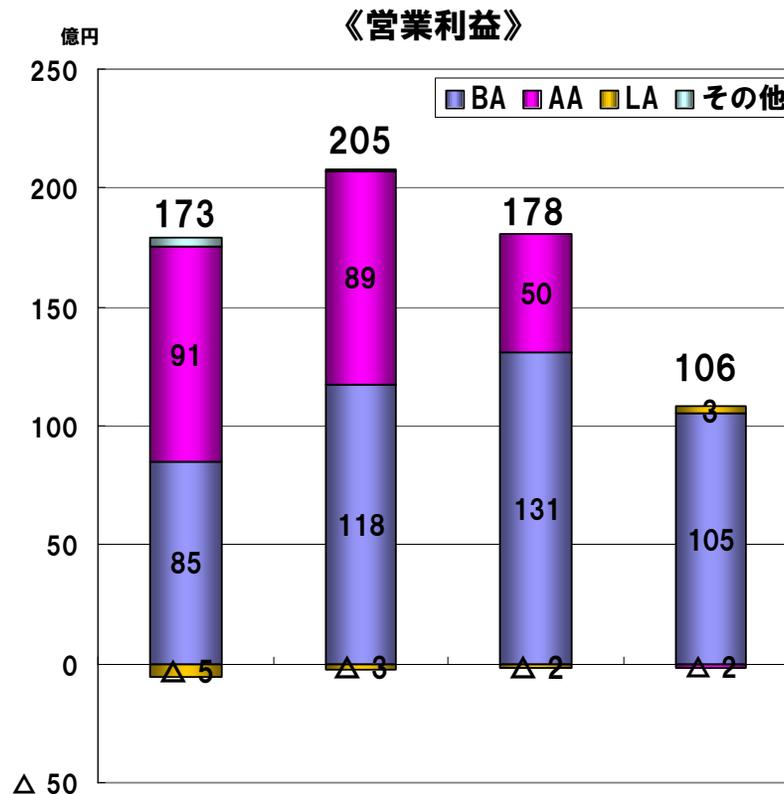
単位：億円

	2008年度 (2009年3月期)		2009年度 (2010年3月期)					
	通期 実績 (A) (2009.5.8)	通期 修正計画 (B) (2009.10.30)	前年同期比増減		通期 期初計画 (C) (2009.5.8)	期初計画比増減		
			(B) - (A)	%		(B) - (C)	%	
BA 売上高	1,004	975	△ 29	△2.9%	970	5	0.5%	
営業利益	131	105	△ 26	△19.7%	110	△ 5	△4.5%	
営業利益率	13.0%	10.8%	△ 2.3		11.3%	△ 0.6		
AA 売上高	936	770	△ 166	△17.8%	830	△ 60	△7.2%	
営業利益	50	△ 2	△ 52	-	3	△ 5	-	
営業利益率	5.3%	△0.3%	△ 5.6		0.4%	△ 0.6		
LA 売上高	359	340	△ 19	△5.4%	350	△ 10	△2.9%	
営業利益	△ 2	3	5	-	3	-	-	
営業利益率	△0.4%	0.9%	1.3		0.9%	-		
その他 売上高	79	50	△ 29	△36.8%	45	5	11.1%	
営業利益	△ 1	0	1	-	0	-	-	
営業利益率	△0.7%	0.0%	0.7		0.0%	-		

※ 各セグメントには、セグメント間の内部取引が含まれています。



	2006 実績	2007 実績	2008 実績	2009 修正計画
BA	890	1,005	1,004	975
AA	997	1,054	936	770
LA	368	365	359	340
その他	111	84	79	50
合計	2,346	2,486	2,362	2,120



	2006 実績	2007 実績	2008 実績	2009 修正計画
BA	85	118	131	105
AA	91	89	50	△ 2
LA	△ 5	△ 3	△ 2	3
その他	4	1	△ 1	0
合計	173	205	178	106

※ 各セグメントには、セグメント間の内部取引が含まれています。

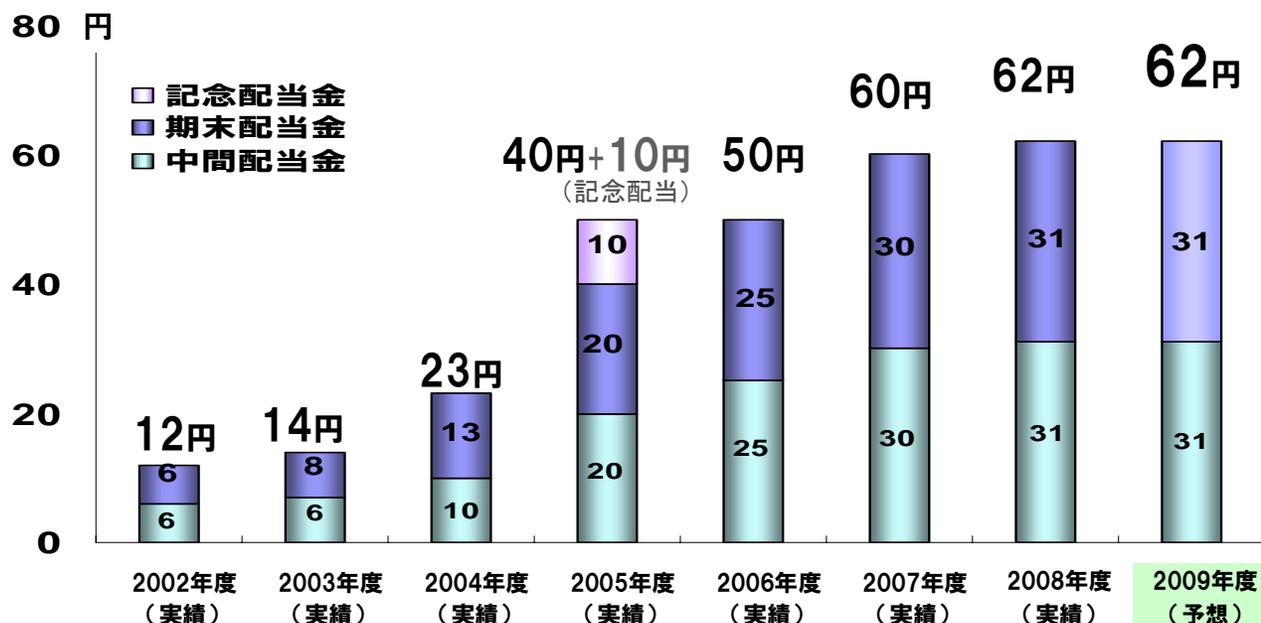
## 3 株主への利益還元

# 2009年度中間配当・期末配当予想

● 公表通り中間配当・期末配当とも一株あたり31円、  
年間で一株当たり62円の配当を予想。

2009年度

(中間)		(期末)		(年間)
<b>31 円</b>	+	<b>31 円</b>	=	<b>62 円</b>



	2002年度 (実績)	2003年度 (実績)	2004年度 (実績)	2005年度 (実績)	2006年度 (実績)	2007年度 (実績)	2008年度 (実績)	2009年度 (予想)
年間配当金	12 円	14 円	23 円	50 円	50 円	60 円	62 円	62 円
純資産配当率 (連結)	0.9 %	1.1 %	1.7 %	3.5 %	3.2 %	3.7 %	3.7 %	※ 3.7 %
配当性向 (連結)	16.6 %	31.8 %	45.6 %	37.6 %	34.6 %	41.2 %	48.5 %	83.3 %

※ 参考値

## 4 その他

## 省エネルギー、環境負荷低減に貢献する商品

### ■ Web-Infiflex(ウェブ・インフィレックス)

最大約15%(年間)のCO2排出削減を可能とするSaaS/ASP型サービス。

### ■ Building-Scope(ビルディング・スコープ)

”テナント空調エネルギー推計機能“

テナント毎の空調エネルギー使用量を高精度かつ容易に算出し、改正省エネ法に対応。

### 熱源最適化コントローラ

### ■ PARACONDUCTOR (パラコンダクタ)

建物全体の消費エネルギーの約40%占める空調熱源システムの運転台数を最適にコントロールし、省エネ・省CO2を実現。



### ■ 計装ネットワークモジュールNX (エネオプト)

### ■ 工場省エネルギーソリューションENEOPT



計装ネットワークモジュールNXを核とした「NX計装」が、環境負荷低減とフレキシブルな生産体制作りにも貢献。あわせて、ENEOPTが、NXによる生産ラインの装置群を最適運用し、電力、蒸気、冷・温水など製造棟に送られるエネルギーの最適運用で、工場全体の省エネルギーを実現。

## 安心・安全を実現する商品

### ■ 各種感圧スイッチ

(株式会社ブリヂストンから事業譲渡)

工場作業者の挟まれ衝突防止など様々な場面での安全確保に貢献。



### ■ お家でナースホン

業界シェアNo.1、全国会員数約62,000人の実績を基に、一般消費者向けに新たにお届けする「緊急通報サービス」。24時間365日いつでも専門スタッフが対応。



【参考】

設備投資・減価償却費・研究開発費



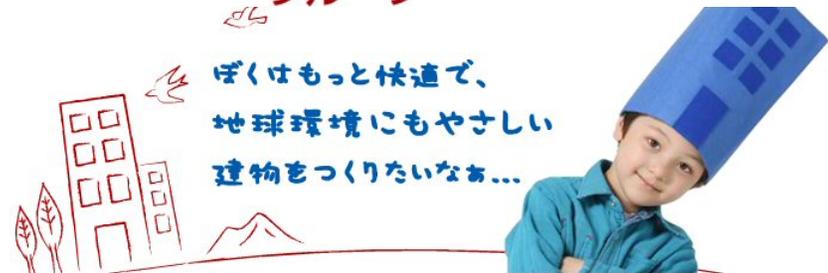
創業1906年 山武の進化  
人を中心としたオートメーション

単位：億円

	2008年度 (2009/3期)	2009年度 (2010/3期)				
	通期 実績 (A)	上期 実績	下期 予想	通期 修正計画 (B)	増減 (B) - (A)	%
<b>●設備投資</b>						
山武	54	11	14	25	△ 29	△53.3%
連結子会社	11	3	6	9	△ 2	△14.7%
連結	64	14	20	34	△ 30	△47.0%
<b>●減価償却費</b>						
山武	31	16	19	35	4	12.1%
連結子会社	14	6	7	13	△ 1	△5.9%
連結	45	23	25	48	3	6.6%
<b>●研究開発費</b>	96	41	49	90	△ 6	△6.6%
売上高比%	4.1%	4.4%	4.1%	4.2%	0.2	

**azbil**  
グループ

創業1906年 山武の進化  
人を中心としたオートメーション



ぼくはもっと快適で、  
地球環境にもやさしい  
建物をつくりたいなあ...

azbilグループは、  
「人を中心としたオートメーション」で、  
人々の「安心・快適・達成感」を実現する  
とともに、地球環境に貢献します。



ぼくは安全で、  
ひとが生き生きと働ける  
工場をつくりたいなあ...



わたしは家族や  
身近なひとたちを、  
もっとシアワセな気持ちにしたいわ...

株式会社 山武